

貝原益軒著「大和俗訓」やまとぞつくん 岩波文庫、岩波書店 1938年9月15日刊を読む

1. (1)人と生れて學ばざれば生れざると同じ。  
(2)まなんでも道をしらざれば學ばざると同じ。  
(3)道をしりても行はざれば、しらざるに同じ。
2. (1)その故いかんとなれば、人と生れてまなばざれば、人の道をしらずして、人と生れたるかひなし。  
(2)是れ人とうまれて學ばざれば、生れざると同じきなり。  
(3)學ぶは道をしらんがためなり。
3. (1)もし學びやうあしくして道をしらずんば、學ばざると同じきなり。  
(2)又、道をするは行はんがためなり。  
(3)まなんでも道をしりても、行はざればしらざるに同じ。
4. (1)故に、人とうまれては、必ず學ばずんばあるべからず。  
(2)學ぶ者は必ず道をしらずんばあるべからず。道をしれば必ず行はずんばあるべからず。  
(3)道をしれば必ずよく行ふ。行はざるはいまだ道をしらざるなり。
5. 道をしらんと思はば、聖人の教をあふぎ、賢人の説を階梯として、その法に隨ふべし。是れ道をするべき學問のすぢなり。
6. 道に志なく、師傳あしく、學術のすぢちがへば、一生精力を用ひ、つとめ學んでもしるしなし。
7. 故に、道を學ばんと思はば、初學より道にふかく志をたてて、明師にしたがひ、良友にまじはり、學術をえらぶをむねとすべし。
8. (1)學術とはまなびやうのすぢをいふ。  
(2)學のすぢあしければ、一生つとめても道をしらず。  
(3)一たび迷ひぬれば、よき道に立ちかへりがたし。故に、まづ學術をえらぶべし。
9. (1)學問の道は、極めて廣大高妙にして深奥なり。  
(2)しかれども、其の近き所は、孝弟忠信の日用常行にあり。  
(3)故に、いかなる愚なる者も、この道をまなびやすく、しりやすく、行ひやすし。高遠にしてあやしく異なる道にはあらず。

10. (1) 志を立つることは大にして高くすべし。  
(2) 小にしてひきければ、小成に安んじて成就しがたし。天下第一等の人とならんと平生志すべし。  
(3) 世俗と同じく、いやしくひきくすべからず。  
(4) かく志をたてて、日々月々につとめ行はば、久しくしてその功つもりて、必ず人にまさるべし。  
(5) 上をまなべば中にいたり、中をまなべば下にいたる。  
(6) 下を學べば功をなさず。  
(7) 又、心は小にしてひきくすべし。人にへりくだり、日用常行のひききあしもとより行ふべし。  
(8) 心大なれば、おごりてつつしみなく、細行をつとめず。高ければ人にたかぶりて謙徳を失ふ。

P55

<コメント>

志を立てることの大切さを、江戸時代の賢者、貝原益軒先生の本書ほどわかりやすく語っている古典はありません。じっくりお読みください。

2021年5月8日(土)林明夫